

山田 勇先生を送る

経済学部長
阿部 文雄

山田勇先生は、平成 18 (2006) 年 3 月 31 日をもって、本経済学部を定年により退職されました。先生は、香川大学にご着任以来、教育学部に 25 年、本経済学部には 11 年のあわせて 36 年の長きにわたってロシア語学や言語分析の分野で研究教育を続けてこられました。香川大学は、先生の在職中の多大のご功績に対して本年 4 月に香川大学名誉教授の称号をお贈りしました。

先生は昭和 17 (1942) 年 7 月に東京都大田区荏原にお生まれになり、東京都立田園調布高等学校を経て、昭和 38 年 4 月に神戸市立外国語大学ロシア語学科に入学されました。そして、昭和 42 年 3 月に同大学を卒業後、同年 4 月に神戸市立外国語大学大学院外国語研究科修士課程 (ロシア語専攻) に進学されました。昭和 45 年 3 月に同修士課程を修了後、同年 4 月に香川大学教育学部に助手として就任されました。その後、昭和 47 年 4 月講師、昭和 50 年 4 月助教授、昭和 60 年 4 月教授に昇任されました。そして、平成 7 年 4 月に、本経済学部新たに設置された地域社会システム学科の教授として移籍されました。

先生のご専門はスラヴ語の比較研究です。先生は、昭和 52 年から昭和 53 年にかけて、文部省在外研究員として、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) のスラヴ語学科で研究を深め、また昭和 59 年には、ブラチスラヴァでのスロヴァキア語講習会に参加するなど、スラヴ語族に属する諸言語について研究を進めてこられました。その研究成果は、平成 11 年に刊行された『スラヴ語比較研究序説 形態論』に結実しています。スラヴ語族の各言語の比較文法研究であるこの著書では、名詞の形態論が主に扱われていますが、名詞の活用形の資料は、シンポジウム等で訪問した東欧各国の大学で収集した貴重なデータに基づいていると伺っています。また、先生は、平成 11 年から 12 年に

かけて、日本学術振興会特定国派遣により、ブルガリア共和国のヴェリコ・ティルノヴォ大学にも留学されましたが、同大学の日本語コースの学生のためにブルガリア語による日本語の学習教材の開発も行いました。平成15年にブルガリアで刊行された『ブルガリア語日本語学習辞典』が、この分野での業績です。

教育面でも、先生は、36年の長きにわたり、香川大学のロシア語教育に尽力されました。教育学部時代には、総合科学課程に、ゼロ免コースとして言語文化コースが設置された際、その設立ワーキンググループのメンバーとして活躍され、ロシア語文化専攻の学生を指導してきました。経済学部に移籍してからも、平成14年にモスクワ大学での学生のロシア語研修を実現するなど多くの実績を残されました。先生は、長く香川大学のロシア語教育を一人で担われ、文字通り、孤軍奮闘の働きをしてこられました。退職の最終講義や送別会で、ロシアや東欧諸国で活躍中の教え子たちの話を嬉しそうにお話しされていたのが大変印象的でした。

最後に、管理運営面でも、先生は、香川大学のために多大の貢献をされてきました。教育学部時代には、一般教育部常任委員会委員、一般教育部外国語自習室長、一般教育改革構想委員会委員、一般教育自己評価委員会委員、一般教育組織・大学教育研究センタープロジェクト委員、教務委員会委員など、そして平成7年に経済学部へ移籍されてからも、地域社会システム学科長をはじめ、管理運営委員長、研究教育委員会委員、学部将来計画検討委員会委員、全学施設整備委員会委員、共通教育外国語部会長など労力を惜しまず精力的に務めてこられました。とくに、平成17年度には、大学教育開発センターの外国語教育部長として活躍されました。

定年による退職とはいえ、多大の業績を残された先生を失うことは経済学部にとって大きな損失であります。とはいえ、退職後も引き続き、非常勤講師としてロシア語教育をご担当いただけると聞いております。どうか身体に十分留意されて、私ども後輩のために、今後とも、ご指導・ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。